

現代朝鮮語の-와/-과について

江波戸文康
千葉大学研究生

1はじめに

本稿の目的は現代朝鮮語の体言助詞¹⁾である-와/-과の意味、機能を、単語結合論を参考にして考察することである。

2 先行研究

2. 1 入門書, 辞書類

まず、朝鮮民主主義人民共和国の研究から見ることにする。

과학, 백과사전출판사(1979:252)では、-와/-과を구격토²⁾として扱い、-와/-과形をとる体言(以下、「体言+-와」とする)がどのような文法的意味を持つかという観点から、以下の三つに分類している。³⁾

1) 상대로 하는 대상 (相手にする対象)

例) 군대의 정치사상적우월성이 군사기술적우월성과 결합될 때 그것은 참으로 위대한 힘을 나타나게 된다.

(軍隊の政治思想的優越性が軍事技術的優越性と結合する時、それは実に偉大な力を現すようになる。)

2) 나란히 이어주는 대상 (並んで続ける対象)

例) 모든 당원들과 인군들은 언제 어디서나 로쇠와 침체, 안일과 해이를 반대하고 왕성한 투지와 패기와 정열에 넘쳐 긴장하게 전투적으로 일하고 생활하며 모든 사업을 대담하고 통이 크게 벌려나가야 한다.

(すべての黨員達と人民達はいつでも老衰と沈滞, 安逸と弛緩に反対し旺盛な闘志と覇氣と情熱にあふれ、緊張して戦闘的に働き生活しながらすべての事業を大胆に肝を据えて広げていかなければならない。)

3) 비교의 대상 (比較の対象)

例) 혁명의 한길에서 굳게 맺어진 동지들 사이에는 혈육과 같은 깊은 정이 오고 간다.

(革命の道で硬く結ばれた同志達の間には肉親と同じような深い情が通い合う。)

その後、리근영(1985:141)では、「体言+-와」の後に現れる単語との“結合”の関係⁴⁾によって、以下のように分類している。

1) 동사, 형태사와 결합하여 그 행동이나 상태가 실현되기 위하여 상대로 하는 대상임을 나타낸다.

(動詞, 形容詞と結合しその行動や状態が実現するために相手にする対象であることを表わす。)

例) 담임선생은 학부형들과(학부형들이랑, 학부형들하고) 담화를 한다.

(担任の先生は父兄と談話をする。)

2) 《같다, 다르다, 비슷하다, 흡사하다》 등과 같은 형태사와 결합하여, 또는 《마찬가지다, 판판이다》와 같은 명사술어와 결합하여 대비되는 대상임을 나타낸다.

(같다「同じだ」, 다르다「異なっている」, 비슷하다「似ている」, 흡사하다「似ている」などのような形容詞と結合し, また 마찬가지로「同様だ」, 판판이다「違う」のような名詞の述語と結合して対比される対象であることを表わす。)

例) 금간산 골짜기마다에 흐르는 물은 맑기가 수정과 같다.

(金剛山の谷間ごとに流れる水の清さは水晶のようだ。)

3) 대상성과 관련된 단어나 기타 단위를 열거하여 나란히 이어준다.

(対象性と関連した単語やその他の単位を列挙し並んで続ける。)

例) 조국과 인민을 위하여 복무한다.

(祖国と人民のために服務する。)

また, 上の三つの意味では-와/-과를-랑/-이랑, -하고に置き換えが可能であるとし, さらに-와/-과だけに特有な意味として, 以下の二つの分類を加えている。⁵⁾

4) 《같이, 비슷이, 달리, 함께...》 등과 같은 부사와 결합하기 위하여 쓰인다.

(같이「同じく」, 비슷이「似て」, 달리「異なって」, 함께「共に」...などのような副詞と結合するために用いられる。)

例) 우리와 함께 분여받은 이 땅에서 농사를 힘껏 지읍시다.

(我々とともに分与されたこの土地で農業を精一杯営みましょう。)

5) 《더불어, 아울러》와 결합하기 위하여 쓰인다.

(더불어「共に」, 아울러「合わせて」, と結合するために用いられる。)

例) 조국과 더불어 영생하리라.

(祖国と共に永遠に生を営まん。)

ここでは, 4), 5) のような「-와+副詞」など⁶⁾の連結を別に扱い, 1), 2), 3) と区別したが, いくつかの単語をあげただけにとどまっている。朝鮮民主主義人民共和国の記述の多くは上の1), 2), 3), の三分類を認めるものであった。

次に中華人民共和国の研究を見ることにする。
차광일(1981:29)では, さらに詳しく 6種類に分類している。

- 1) 병렬의 대상 (並列の対象)
例) 조국과 인민을 위해 모든것을 바친다.
(祖国と人民のためすべてをささげる。)
- 2) 협동의 대상 (協同の対象)
例) 우리는 각국 인민과 단결한다.
(我々は各国の人民と団結する。)
- 3) 적대의 대상 (敵対の対象)
例) 원수놈들과 싸운다.
(敵たちと争う。)
- 4) 비교의 대상 (比較の対象)
例) 탕크의 원리는 트랙또르와 비슷하다.
(戦車の原理はトラクターと似ている。)
- 5) 관계의 대상 (関係の対象)
例) 동생은 형님과 좋아한다.
(弟は兄と好き合う。)
- 6) 혼합의 대상 (混合の対象)
例) 모래를 흙과 섞었다.
(砂を土と混ぜた。)

ここでは, すべて例文がひとつずつあげられているだけで, -와と連結する用言の基準および意味分類の根拠などについての説明は無かった。

강은국(1993)は朝鮮語の各種の文型を挙げているが, そのうち-와を含むものは次の通りである。

제 5 장 동사술어기본문형 (動詞述語基本文型)

제 1 절 자동사술어기본문형 (自動詞述語基本文型)

10. 제 10 형 《N이^① + N와 + N이^② + V》

例 1) 나는 아버지와 소식이 두절되었다.

(私はお父さんと消息が途絶えた。)

例 2) 나는 영옥이와 사돈간이 되었다.

(私はヨン옥と姻戚になった。)

제 2 절 타동사술어기본문형 (他動詞述語基本文型)

4. 제 14 형 《N이 + N와 + N를 + V》

例 1) 총각은 처녀와 아름다운 래일을 약속하였다.

(男は女とすばらしい明日を約束した。)

例 2) 나는 영수와 승부를 겨루었다.

(私はヨンスと勝負を争った)

例 3) 우리 배구건아들은 일본배구건아들과 축기를 상환하였다.

(わが国のバレーボール健児たちは日本のバレーボール健児たちと祝旗を交換した。)

例 4) 신기철은 신용철과 《새 우리말 큰사전》을 합저하였다.

(신기철은신용철과新韓國語大辭典を共著した。)

また次のものも挙げている。

例 1) 과학원에서는 언어연구소와 역사연구소를 합설하였다.

(科学院では言語研究所と歴史研究所を併設した。)

例 2) 영수는 자동차와 머리를 맞찌었다.

(영수는自動車と頭をぶつけた。)

例 3) 그는 원본과 필사본을 대조하였다.

(彼は原本と筆写本を対照した。)

8. 제 18 형 《N이+N에+N와+N를+V》

例 1) 그는 어깨에 권총과 망원경을 엇걸었다.

(彼は肩に拳銃と望遠鏡を交差に掛けた。)

例 2) 훈민정음창제자들은 자음자모를 초성과 종성에 량용하였다.

(訓民正音創製者たちは子音字母を初声と終声に両用した。)

9. 제 19 형 《N이+N와+N에 대해+N를+V》

例) 우리는 조교수님과 언어의 기원에 대해 견해를 나누었다.

(私たちは助教授と言語の起源について見解をかわした。)

제 3 절 량면동사술어기본문형(兩面動詞述語基本文型)

8. 제 27 형 《N이+N와/N를+V》

例 1) 옥실이는 아버지와 상봉하였다.

(옥실이는お父さんと対面した。)

옥실이는 아버지를 상봉하였다.

(옥실이는お父さんと対面した。)

例 2) 레닌동지는 우리와 영별하였다.

(레닌同志は我々と永別した。)

레닌동지는 우리를 영별하였다.

(레닌同志は我々と永別した。)

例 3) 그는 동무들과 잘 친한다.

(彼は友達ととても仲良くした。)

그는 동무들을 잘 친한다

(彼は友達ととても仲良くした。)

제 6 장 형용사술어기본문형(形容詞述語基本文型)

3. 제 3 형 《N이+N와+A》

例) 곱기가 꽃과 같다.

(美しさが花のようだ。)

8. 제 8 형 《N이^①+N와+N이^②+A》

例 1) 철이는 그 처녀와 사이가 나쁘다.

(철은その少女と仲が悪い。)

例 2) 나는 공단지장과 모순이 많다.

(私は公団長と対立が多い。)

제 7 장 명사술어기본문형(名詞述語基本文型)

3. 제 3 형 《N이+N와+N이다》

例 1) 영수는 나와 동갑이다.

(영수는私と同年輩だ。)

例 2) 철수는 영애와 친남매간이다.

(철은영애と実の兄妹だ。)

강은국(1993)は各々の文型に入る述語として, 動詞, 形容詞, 名詞を小數ではあるが挙げていることは注目される。

これまでの研究のなかでは, もっとも包括的で詳しいと言えるが, この研究は次の章で述べる等位的單語結合と従位的單語結合とを区別していないようにみえる。また, これは各々の文型における格助詞の意味などについてはふれていない。

大韓民國の辭書における記述も以下の한글학회(1992)のように三つの意味を認めるものが多い。

1) 서로 같거나 다른 대상임을 보이는 견증자리토. (お互い同じであったり異なる対象であることを示す比較格助詞)

例) 범은 고양이와 비슷하다.

(虎は猫と似ている。)

2) 서로 함께 하는 대상임을 보이는 자리토. (お互いいっしょにする対象であることを示す格助詞)

例) 수남이는 동무와 산에 갔다.

(수남이는友達と山へ行った。)

3) 여러 사물을 나란히 벌여 들 적에 쓰이는 이음토. (いくつかの物事を並べて挙げる時に使われる並列助詞)

例) 바다와 산은 다 내가 좋아하는 곳이다.

(海と山は両方とも私が好きなところだ。)

しかし, 연세대학교(1998)には比較的詳しい記述がある。

1) 여러 개의 명사를 대등하게 이어 줄 때 쓰이는 접속 조사.

(いくつかの名詞を対等につなげる時に用いられる接続助詞)

例) 우리는 좋은 친구를 선택하는 지혜와 용기를 가져야 한다.

(私達はよい友達を選ぶ知恵と勇氣を持たなければならない。)

2) 부사격 조사. (副詞格助詞)

① ‘함께 함’의 대상이 됨을 나타냄. (‘共にすること’の対象になるこ

とをあらわす)

《뒤에 ‘함께, 더불어, 같이’ 등이 오기도 함》(後ろに 함께 「共に」, 더불어 「共に」, 같이 「同じく」などが来たりもする。)

例) 나와 같이 우리 집으로 갑시다.

(私といっしょに私のうちに行きましょう。)

② 서로 대칭이 되는 대상임을 나타냄.

(お互い対称になる対象であることをあらわす)

【참】 주로 ‘사귀다, 만나다, 싸우다’ 등의 동사와 함께 쓰임 (【参考】主に ‘사귀다」 「付き合う」, 만나다」 「会う」, 싸우다」 「けんかする」) 등의動詞と共に使われる。)

例) 사람이 개와 서로 사귄 역사는 꽤 오래 되었다.

(人が犬と互いにつきあった歴史はかなり古い。)

③ 어떠한 관계에 있는 대상임을 나타냄.

(ある関係にある対象であることをあらわす)

例) 그는 나와 가장 친했다.

(彼は私と一番仲がよかった。)

④⑦ 비교의 대상임을 나타냄.

(比較の対象であることをあらわす)

【참】 주로 ‘비교하다, 비슷하다, 같다’ 등의 용언과 함께 쓰임 (【参考】主に ‘비교하다」 「比較する」, 비슷하다」 「似ている」, 같다」 「同じだ」) 등의用言と共に使われる。)

例) 난 내 처지를 성공한 선배와 비교해 보았다.

(私は自分の立場を成功した先輩と比較してみた。)

⑨ 기준이 됨을 나타냄.

(基準になることをあらわす)

【참】 주로 ‘어울리다, 맞다’ 등의 용언과 함께 쓰임 (【参考】主に ‘어울리다」 「似合う」, 맞다」 「合う」) 등의用言と共に使われる。)

例) 그녀와 어울리는 남자를 골라 봐 주세요.

(彼女に合う男性を選んでみてください。)

菅野他(1988)と同様に, まず接続助詞と副詞格助詞の二つを区別している。また, -와의あとに来る用言などを挙げ, 豊富な例文とともに説明している。

このように入門書, 辞書類の記述では, 「体言+-와」や「-와+副詞」などをいくつかの意味, 機能に分類したが, その意味が現れる環境, すなわち「体言+-와」と連結する用言による制限についての説明はほとんど無かった。また, 朝鮮民主主義人民共和国, 中国, 韓国に共通して, 一般的に三

つの分類を認めるものが多い。

2. 2 論文類

-와の研究はまず大きく二つに分けることができる。一つ目は-와の全体的機能についての研究であり, 최현배(1937)では-와는“함께자리토”, “견뎌자리토”, “이음토씨”の三つの機能を持つとしている。これに対し,-와の持つ機能は並列のみであり, 他の用法はすべて並列が並べ替えや述語の位置に現れる用言(主に動詞)の意味特性によって変わったものとするものである。김완진(1970)では,-와の構文は“文接続”と“句接続”という二つの方法によって説明している。⁷⁾

例) 아들과 며느리에게 便紙를 썼다.

(息子と嫁に手紙を書いた。)

という文には, 「息子と嫁の二人に 1 枚の手紙を書いた」という意味と, 「息子と嫁の二人に別々に手紙を書いた」という意味の二つの解釈があるとし, 前者の意味の-와는深層において二つの語詞(名詞)を並置させることに貢献し, 表面でもそのままの形を維持しているとして, これを“句接続”とし, 後者の意味の-와는深層では

例) 아들에게 便紙를 쓰고, 며느리에게 便紙를 썼다.

(息子に手紙を書き, 嫁に手紙を書いた。)

という二つの文を連結させる-고からの転換に由来するとして, これを“文接続”としている。つまり, -와を含む多様な構文はすべてこの“文接続”と“句接続”のどちらかによって説明が可能であり, 述語の位置に現れる用言の特徴によって, どちらかが選択されるというものである。また 김진수(1987)は, 명사구 접속조사(名詞句接続助詞)として-와, -하고を扱った。

二つ目は-와を含む動詞構文の統辞論的な研究である。홍재성(1985a, 1985b, 1986)では, [NP 1 와 NP 2 가 V] (NP-名詞句, V-用言)という構造の文が[NP 1 가 NP 2 와 V]に置き換えが可能な構文を, 対称構文, 相互構文, 競争構文, 同伴構文の四つに分類し, 対称構文を中心にそれぞれの統辞, 意味論的な特徴について記述している。対称構文, 相互構文についてはそれぞれその環境下に現れる動詞を対称動詞, 相互動詞⁸⁾とし, 홍재성他(1997)ではこれら二つの動詞を記述している。⁹⁾これについては7章で詳しく述べる。

その後 김준희(1997)では, これら-와を含む動詞構文において-와の意味を決定する要素として, “월의 구조(어순)「文の構造(語順)」” “풀이씨의 특징(일반/함께/견뎌)「述語の特性(一般/共同/比較)」”, “논항의 자질(+동일/-동일)「論項の資質(+同一/-同一)」”の三つにあげ, 実現する意味機能には“이음(並列)”, “함께(共同)”, “견뎌(比較)”の三つがあるとしている。

このように-와についての研究は最近に入って、-와の機能についての研究から-와を含む動詞構文の統辞論的な特徴についての研究へと関心が向けられてきた。しかし、-와についての全体的記述または意味設定について、包括的に説明したものはまだないといえるだろう。

2. 3 単語結合について

例えば次のような単語の結合がある。

- a 신문을 읽다(新聞を読む), 신문을 보다(新聞を見る)
- b 신문에 쓰다(新聞に書く), 신문에 있다(新聞にある)
- c 신문의 이름(新聞の名前), 좋은 신문(よい新聞)
- d 빨리 읽다(はやく読む), 아주 좋다(とてもよい)
- e 신문이 있다(新聞がある), 신문이 쓰다(新聞が書く)
- f 신문이 나쁘다(新聞が悪い), 신문이 보배다(新聞が宝だ)
- g 신문과 잡지(新聞と雑誌), 신문이나 잡지(新聞や/か 雑誌)
- h 신문이라든가 잡지라든가(新聞とか雑誌とか)

体言助詞を語尾と見るか助詞と見るかによって、上記の結合は2単語あるいは3単語あるいは4単語の結合ということになるが、いずれにせよ最低限の自立語2つからなるという点では共通している。cの一部とdの場合を除いてすべての場合に体言助詞が存在する。

以上の単語結合は大きく3種類に整理することができる。(Aは2つの単語の結合のうち前のもの、Bは後ろのものを指す)

- I a, b, c, d A→B AはBを規定する
- II e, f A—B AとBは主語—述語の関係にある
- III g, h A+B AとBは対等

IIIのものは、IIのAおよびIのAのうち名詞の部分を拡大することができる。

- I a' 신문과 잡지를 읽다(新聞と雑誌を読む)
- II e' 신문과 잡지가 있다(新聞と雑誌がある)

またIとIIでは体言助詞にとりたて助詞(いわゆる副助詞)¹⁰⁾が付くことや、体言助詞が省略されることもありうる。この場合でもAとBの関係にはまったく変化はない。

- I a" 신문은 읽다(新聞は読む),
신문만 읽다(新聞だけ読む),
신문 읽다(新聞 読む)
- b" 신문에는 쓰다(新聞には書く),
신문에만 쓰다(新聞にだけ書く)
- c" 신문에서의 발췌(新聞からの抜粋)
- II e" 신문은 있다(新聞はある),

신문만 있다(新聞だけある),

신문 있다(新聞 ある)

体言助詞には後置詞的な要素が付くこともある。(下線は後置詞的な要素)

b" " 신문에 대해서 쓰다(新聞について書く)

c" " 신문에 관한 논평(新聞に関する論評)

また I と II の B が用言である場合、B はさまざまな形をとりうるが、それが B のパラダイムに属する限り、A と B の関係にはまったく変化がない。

I a" " 신문을/은/만/∅ 읽었다. (新聞を/は/だけ/∅ 読んだ)

신문을/은/만/∅ 읽어라. (新聞を/は/だけ/∅ 読め)

신문을/은/만/∅ 읽지 않는다. (新聞を/は/だけ/∅ 読まない)

い)

신문을/은/만/∅ 읽지 않을 것이다. (新聞を/は/だけ/∅
読まないだろう)

신문을/은/만/∅ 읽는 (新聞を/は/だけ/∅ 読む(連体形))

신문을/은/만/∅ 읽고 (新聞を/は/だけ/∅ 読み)

II b" " 신문이/은/만/∅ 있었다. (新聞が/は/だけ/∅ あった)

신문이/은/만/∅ 읽을 것이다. (新聞が/は/だけ/∅
あるだろう)

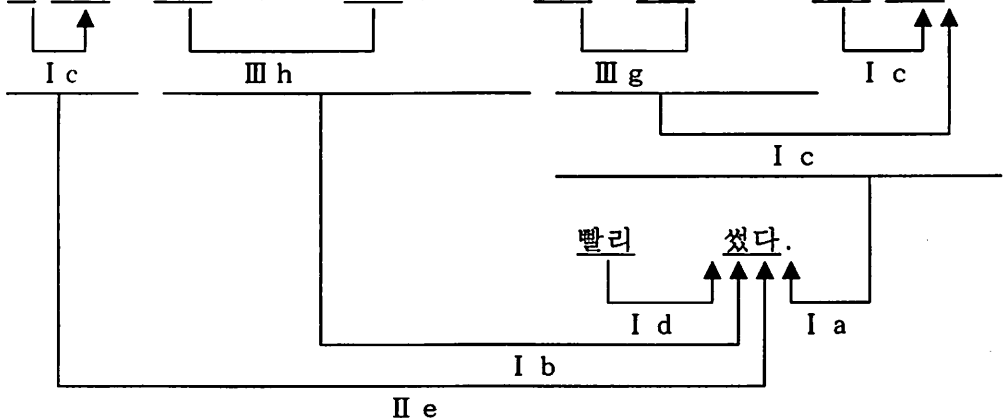
신문이/은/만/∅ 있는 (新聞が/は/だけ/∅ ある(連体形))

신문이/은/만/∅ 있고 (新聞が/は/だけ/∅ あり)

つまり I と II では、A の体言助詞と B の語尾の部分がさまざまに変化しても、A と B の骨格の部分は変わらず、同様に A と B の関係も変わらないと言える。

I, II, III とも単語の結合の項を拡大することができる。

그 사람은 신문이라든가 잡지라든가에 일본과 한국에 관한 좋은 기사를



(その人は新聞とか雑誌とかに日本と韓国に関するよい記事をはやく書いた)

I と II の違いは A と B の関係のちがいに基づくものであり、I では A と B との関係は A が B を規定、あるいは修飾するのに対し、II では A と B との関係は I とは異なり、規定/被規定、修飾/被修飾の関係ではなく対等といえる。また、I のうち c の A は単語の本体としての B (つまり体言助詞のつかない部分) にのみ関連している。III の A についても同じことがいえる。なお、c の A は連体的、a、b、d の A は連用的ともいえる。

以上のことを総合して上記の単語の結合は次の 3 種類に分類することができる。

I 従位的単語結合

II 陳述的単語結合

III 等位的単語結合

ソ連科学アカデミー(1990-91)では主に I だけを単語結合として扱っているが、その定義を要約するとほぼ次のようになる。

「単語結合とは、2 つ以上の自立語から成る文法的統一体をいう。単語結合は文法的に主導的な構成素(主導語)と文法的に従属的な構成素(従属語)から成り、主導語の語彙=文法的な性質によって従属語の形が予定されるような結びつきである。」¹¹⁾

本稿では、I だけでなく III も単語結合として扱うことにする。以後 I の A を従属語、I の B を主導語と呼ぶことにする。

また、単語結合は多かれ少なかれの言語にも見られるものであり(その際従属語は言語によっては格助詞あるいは前置詞+格助詞であらわされ、III の A は名詞+等位接続詞であらわされる)、単語結合を研究することは B の予定する A という観点から、A の名詞あるいは形容詞の分類にだけでなく、逆に A に規定される B という観点から B の用言、名詞、形容詞の分類が可能であり、このことは語彙の意味の解明にも大いに役立つと思われる。とくに I と II は文の構造の問題と関連していわゆる文型の研究のためにも必須のものでもある。単語の結合性と似た概念としてヴァレンツ(結合価)がある。単語結合はいわゆる collocation と似た概念である。

以下、実際に収集した用例を見ていくことにする。用例は韓国の新聞(조선일보 1993年1月1日から1月9日までの9日分)、小説(1990年代前後のもの)から約 2400 例(従位的単語結合が約 1500 例、等位的単語結合が約 900 例)を収集した。収集した用例を形式的な特徴によって整理すると、以下のようなになる。

A 従位的単語結合

1) 「体言+-斗」+動詞

- 2) 「体言+-와」+形容詞
- 3) 「体言+-와」+副詞
- 4) 「体言+-와」+名詞
- 5) 「体言+-와의」+名詞

B等位的單語結合

3 從位的單語結合

3. 1 「体言+-와」+動詞

(1) 漢字語動詞

- 1) 그렇다면 앞으로의 세계적인 변화와 관련해서 우리들 한국인의 성숙도는 충분한 수준에 도달했다 할 수 있을까.(조 1.1, p3)

(だとすれば今後の世界的な変化と関連してわれわれ韓国人の成熟度は充分な水準に到達したといえるだろうか。)

- 2) 정대표의 퇴장 가능성과 관련한 후계문제는 그가 작년말 대표직 무대리 임명의 필요성을 얘기한 후부터 본격 논의되고 있습니다.(조 1.4, p2)

(チョン代表の退場の可能性と関連した後継問題はかれが昨年末、代表職務代理の任命の必要性を話した後から本格論議されています。)

- 3) 검찰은 이와함께 민자당 최형우 서석재 유홍수의원, 황병태 남재희 이종률 전의원과 민자당 한광옥의원, 국민당 변정일의원 등 각종 고소고발사건과 관련된 인사들로 빠른 시일내에 소환 조사할 방침이라고 말했다.(조 1.9, p23)

(檢察はこれと共に民自党チェヒョンウ, ソソクチェ, ユフンス議員, ファンビョンテ, ナムジェフィ, 이ジョン뉴얼前議員と民自党ハンガン옥議員, 国民党ピョンジョンイル議員など各種告訴告発事件と関連した人々に、はやい期日内に召喚調査する方針だと述べた。)

上の例の「관련하다(関連する)/관련되다(関連する)」は両者ともに自動詞であるが¹²⁾, -와にとりたて語尾がついたものは一例もなかった。この点で-와との結びつきが強いと思われ、他の漢字語動詞とは異なる。また、連体形の관련한(関連した), 관련된(関連した)の形は両方あったが, 관련해서(関連して)の形は今回の調査では見つからなかった。

また、その他の漢字語動詞には以下のようなものがあつた。

- 4) 브라운씨는 또 미 무역대표부(USTR)와 협의해 일본과의 교역을 통제하지 않으면서 보다 효율적으로 일본의 무역장벽을 낮추도록 유도해 대일수출을 신장시킬 수 있는 정책을 펴겠다고 밝혔다.(조 1.8, p5)

(ブラウンさんはまた米貿易代表部 (USTR)と協議し日本との交易を統制せずにより効果的に日本の貿易障壁を低くできるように誘導し, 対日輸出を伸張させることのできる政策を展開すると明らかにした。)

- 5) 내방객과 환담하는 그에게서 보다 자유롭고 평범한 사람으로 지내게 됐다는 안도감이 짙게 풍겼다.(조 1.4, p2)

(來訪客と歓談する彼からより自由で平凡な人間として過ごすようになったという安堵感が濃く漂っていた。)

- 6) 국회법 132조에 “의원의 직무수행에 편의를 제공하기 위해 각 의원에게 비서 2명을 제공하고” 라며 비서를 책상 등 비품과 동일시하고 있기 때문이다.(조 1.7, p17)

(国会法 132 条に「議員の職務遂行に便宜を図るために各議員に秘書 2 名を提供し」として, 秘書を机などの備品と同一視しているためだ。)

- 7) 따라서 미국을 19 세기 후반 식민지 상실과 기술낙후 등으로 초강대국 지위를 상실한 영국의 경우와 수평비교하는 것은 무리라고 본다.(조 1.6, p4)

(したがってアメリカを 19 世紀後半植民地喪失と技術の落後などで超大国の地位を喪失したイギリスの場合と水平比較することは無理だと見る。)

4), 5)는 자동詞, 6), 7)는他動詞¹³⁾의例である。漢字語動詞では, 漢字語と-하다의間に 对格助詞の-를가入る可能性がある。¹⁴⁾また, 4)의例の「수평비교하다(水平比較する)」は, 主導語としての機能¹⁵⁾は「비교하다(比較する)」にあり, 「수평(水平)」はそれを修飾する副詞的な役割をしていると思われる。これに似た動詞は他に「물물교환하다(物々交換する)」があった。また, 以下のリストのうち*印を付けたものについては7. 1で述べる。

<漢字語動詞のリスト>

自動詞

*합의하다(合意する), *접촉하다(接触する), *대화하다(對話する), *연립하다(連立する), *합류하다(合流する), *경쟁하다(競争する), *결별하다(決別する), *충돌하다(衝突する), *대립하다(対立する), *협력하다(協力する), *사별하다(死別する), 연락하다(連絡する), *상대하다(相對する), *결합하다(結合する), *토론하다(討論する), *거래하다(取引する), *공연하다(共演する), *대면하다(對面する), *접촉하다(接觸する), *대화하다(對話する), 환담하다(歡談する), 연애하다(戀愛する), *결혼하다(結婚する), *직결되다(直結する), *연결되다(連結する), *유리되다(遊離する), *연계되다(連係する), 위배되다(違反する)

他動詞

*비교하다(比較する), *협의하다(協議する), 상의하다(相談する), *동일시하다(同一視する), *연결하다(連結する), 거론하다(論ずる), *물물교환하다(物々交換する), *수평비교하다(水平比較する), 타협하다(妥協する), 처리하다(処理する)

受動形あるいは自動詞¹⁶⁾

*구분되다(区分される), *대조되다(対照される), *연결되다(連結される)

また, 漢字語動詞に似たものに以下のような例がある。

8) 작년 10월 YS와 협의.(조 1.4, p5)

(昨年 10 月 YSと協議。)

9) 박할머니는 지난 1879년 경기도 광주의 농가에서 태어나 15세 되던 해인 1894년 황창원씨와 결혼, 아들 하나를 낳았으나 장티푸스로 30세에 사망하고 1939년 남편 마저 세상을 떠난뒤 손자 문주씨(64) 내외와 난지도 쓰레기매립장 옆에서 살아왔다.(조 1.9, p23)

(朴おばあさんは先の 1879 年京畿道光州の農家で生まれ 15 歳になった年の 1894 年ファンチャンウォンさんと結婚, 息子を一人生んだが腸チフスで 30 歳に死亡し 1939 年夫までもこの世を去った後, 孫のムンジュさん(64) 夫婦と蘭芝島ゴミ埋め立て場の横で暮らしてきた。)

10) 그는 정치문제에 대한 화제는 피한 채 자신의 성장과정 및 건강 문제 등을 주제로 하객들과 담소.(조 1.4, p2)

(彼は政治問題についての話題は避けたまま自分の成長過程および健康問題などを主題に祝い客達と談笑。)

11) 한편 신경식 인수위 대변인은 인사문제와 관련, 차기 대통령이 필요한 자료를 요청하기 전에는 일체 간여하지 않을 것이라고 밝혔다.(조 1.5, p1)

(一方シンギョンシク引受委員会のスポークスマンは人事問題と関連, 次期大統領が必要な資料を要請する前には一切関与しないつもりだと明らかにした。)

これらは, 漢字語で終わる, いわゆる「体言止め」の例である。漢字語の後に, -하다, -되다などが省略されていると思われる。また, -와と後の漢字語の間に함께(ともに)などの副詞が入った例はなかった。

<漢字語で終わるもののリスト>

담소(談笑), *결혼(結婚), *협의(協議), *접촉(接触), *교분(交わり), *혼

인(婚姻), 만찬(晚餐), *교환합의(交換合意), 신년인사(新年挨拶), 휴식(休息)

(2) 固有語動詞

12) 망명한 후 북경에서 단제 신채호등의 지도를 받은 조용은 1926 년 이후로는 만주의 설원과 장백밀림을 누비며 일제와 싸웠다.(조 1.9, p22)

(亡命した後北京で丹齋シンチェホなどの指導をうけたチョオンは 1926 年以後には満州の雪原と長白密林を縫ように回り 日本帝国と戦った。)

13) 미루나무 수풀사이로 여나무채의 조선집들이 보이는데 이따금 곡물을 들고와 만년필 등 생필품과 바꾸어 간다고 했다.(조 1.7, p9)

(ポプラの木の茂みで十数軒の朝鮮家屋がみえるが時折穀物を持ってきて万年筆など 生活必需品と替えていくといった。)

14) 그 인육을 사슴고기와 섞어 찌개를 만들어 먹었다던데 이를 북쪽 식이라 했다 하니 끔찍하기 이룰데 없다.(조 1.8, p5)

(その人肉を シカの肉と混ぜてチゲを作って食べたというのが、これを福祿式といったならば残酷極まりないことだ。)

15) 80 년대 중반에서는 김대중씨의 동교동계로 분류됐으나, 87 년 대선 때 양김씨의 후보 단일화 실패 이후 김영삼씨와 손잡고 김 후보의 선거대책본부장을 맡기도 했다.(조 1.4, p23)

(80 年代中盤からは金大中氏の同系に分類されたが、87 年大統領選挙の時両キム氏の候補単一化失敗以後 金泳三氏と手を組み金候補の選挙対策本部長を任されもした。)

16) 박할머니는 지난 1879년 경기도 광주의 농가에서 태어나 15세 되던 해인 1894년 황창원씨와 결혼, 아들 하나를 낳았으나 장티푸스로 30세에 사망하고 1939년 남편마저 세상을 떠난 뒤 손자 문주씨(64) 내외와 난지도 쓰레기매립장 옆에서 살아왔다.(조 1.9, p23)

(朴おばあさんは先の 1879 年京畿道光州の農家で生まれ 15 歳になった年の 1894 年ファンチャンウォンさんと結婚、息子を一人生んだが腸チフスで 30 歳に死亡し 1939 年夫までもこの世を去った後孫のムンジュさん (64) 夫婦と蘭芝島ゴミ埋め立て場の横で暮らしてきた。)

例文は 12), 15), 16)가自動詞, 13), 14)가他動詞の例である。

また以下のように動詞の体言形と結合したものもあった。

- 17) 사업이 잘되면 대기업들이 뛰어들어 결국 시장을 빼앗고 만다는 생각 때문에 대기업과 관계맺기를 두려워하고 있습니다.(조 1.8,p6)

(事業がうまくいけば大企業が飛び込んできて結局市場は奪われてしまうという考えのために大企業と関係を結ぶことを恐れています。)

<固有語動詞のリスト>

自動詞

*어우러지다(一塊となる), *붙다(付く), *맞다(一致する), *동떨어지다(隔たる), *어울리다(釣り合う), *닿다(接する), *섞이다(混ざる), *싸우다(けんかする), *살다(暮らす), *달라지다(変わる), *손잡다(手を取る), *뒤섞이다(入り乱れる), *둘러앉다(囲んで座る), *빠져나오다(抜け出る), *들어가다(入る), *맞붙다(相對する), *맞물리다(かみ合わさる), *맞닿다(触れ合う), *맞서다(対立する), *맞부딪치다(ぶつかり合う), *마주앉다(向き合っ
て座る), *맞먹다(五分五分だ), *맞닥뜨리다(ぶつかる), *마주보다(向かい合う); *씨름하다(相撲をとる), *데이트하다(デートする), *영키다(もつ
れる)

他動詞

*만나다(会う), *바꾸다(代える), 가지다(持つ), *답다(似る), *사랑하다(愛する), *섞다(混ぜる), *견주다(比べる), *대다(触れる)

体言形

*관계 맺기(關係を結ぶこと), *한 묶음(一束), *첫 만남(初めて会うこと),

3. 2 「体言+-와」+形容詞

- 18) 그러나 요즘 미국인들은 일본식과 다른 미국식 생산성 강화방식을 발전시키는 데도 엄청난 노력을 기울이고 있다.(조 1.5,p4)

(しかし最近のアメリカ人は日本式と違うアメリカ式の生産性強化方式を發展させことにも途方も無い努力を傾けている。)

- 19) 경제 및 에너지난의 심화에도 불구하고 예년과 같은 수준의 군사훈련활동은 유지하면서 군현대화 작업을 지속적으로 추진할 것이다.(조 1.9,p2)

(經濟およびエネルギー難の深刻化にもかかわらず例年と同じ水準の軍事訓練活動は維持しながら軍の現代化作業を持続的に推進するつもりだ。)

- 20) 탄력성 강화.력금.경남세 대거 승진 눈길.한일.예년과 비슷.국제 마케팅 증점.(조 1.6,p7)

(弾力性強化, ラッキー金星, 慶南勢力の大挙昇進の見こみ, 韓日, 例年と類似, 国際マーケティング重点。)

- 21) 민자당의 분위기가 아직도 이완돼 있는 것은 이같은 “줄서기 경쟁”과 무관하지 않다는 지적들이다.(조 1.9, p2)

(民自党の雰囲気はまだ緩んでいることはこのような“地位の争奪競争”と無関係ではないという指摘だ。)

例 20) は 비슷하다(似ている)의 하다가省略された例であり, このような例はこの一例だけであった。

<形容詞のリスト>

다르다(違っている), 같다(同じだ), 똑같다(全く同じだ), 비슷하다(似ている), 가깝다(近い), 동등하다(同等だ), 판이하다(全く違う), 흡사하다(似ている), 무관하다(無関係だ)

3. 3 「体言+-와」+副詞

- 22) 김 추기경은 사전 약속에 따라 김상현 최고위원의 안내로 방문, 김 전 대표 부부와 함께 식사를 하며 장시간 대화를 나눴다고.(조 1.4, p2)

(キム枢機卿は事前の約束に従いキムサンヒョン最高委員の案内で訪問, キム前代表夫婦と共に食事をし, 長時間対話を交わしたそうである。)

- 23) 바로 소학교에 들어가던 그해에 세계 2 차대전이 저질러지고 패색과 더불어 밥먹는 숟가락까지 빼앗아갔던 저인망 수탈로 기름 짜듯 착취당해, 맨발로 높은산에 소풍 가는 것쯤은 조금도 이상한 일이 아니게 되었다.(조 1.4, p5)

(まさに小学校に入ったその年に第二次世界大戦が引き起こされ敗色とともにご飯を食べるスプーンまで奪われていった底引き網収奪で油を絞るような搾取を受け, 裸足で高い山に遠足に行くことぐらいは少しもおかしなことではなくなった。)

- 24) 오른쪽 한빛탑과 나란히 선 다리가 시내에서 대회장으로 바로 통하게 될 엑스포대교, 그 위로 보이는 것이 둔산대교다.(조 1.4, p8)

(右側の한빛탑と並んで立った橋が市内から大会場にまっすぐ通じるようになる엑스포대교, この上にみえるのがトゥン산대교だ。)

- 25) 수업이 남편의 3배가 되고, 남편과는 다른 교과의 교회에 다니며, 통장도 남편과 따로 갖고 있고, 결혼 후 7년간 남편 성을 따르지 않고 처녀때 성을 고수했으며, 미세스(Mrs.) 클린턴보다는 미즈

(Ms.) 클린턴으로 불리기를 더 좋아하는 개성이 뚜렷한 맹렬여자이다.(조 1.8, p4)

(収入が夫の3倍になり、夫とは違う教派の教会に通い、通帳も夫と別に持っていて、結婚後7年間夫の姓にかえず独身の時の姓を固守し、ミセス (Mrs.) クリントンよりはミス (Ms.) クリントンで呼ばれることを好む個性がはっきりした猛烈な女姓だ。)

副詞については5章でくわしくのべる。

<副詞のリスト>

함께(ともに), 더불어(ともに), 달리(異なり), 같이(同様に); 가까이(近くに), 따로(別に), 나란히(並んで)

3. 4 「体言+-와」+名詞

(1) a 「名詞+-에, -로/-으로」

26) 사람과 마찬가지로 상품도 아무런 장벽없이 자유롭게 EC내 국경을 넘을 수 있다.(조 1.5, p6)

(人と同じく商品も何の障壁なしに自由にEC内の国境を越えることができる。)

27) 북한 경제의 어려움을 재확인시켜줌과 동시에 북한 지배층들의 대외 여론에 대한 둔감을 드러낸 증좌라고 하겠다.(조 1.4, p3)

(北朝鮮の経済の困難さを再確認させてくれると同時に北朝鮮の知識層の対外世論に関する鈍感さをさらけ出した証だといえるだろう。)

b 「名詞+이다」

28) 그의 나이는 올해 45 세로 클린턴 대통령 당선자보다는 한살 아래고 고어 부통령 당선자와는 동갑이다.(조 1.7, p4)

(彼の歳は今年45歳でクリントン大統領当選者よりは一才年下で、コア副大統領当選者とは同い年だ。)

-와의後にくる名詞には、aの26), 27)のように名詞に格助詞(-에, -로 /-으로)がついたものがあつた。また、27)の例のように「-와 동시에(〜と同時に)」の前には、名詞のほかに用言の体言形が来ることが多いようである。その他にはbの28)のように「名詞+이다」のものがあつた。

また、これらの名詞が-에, -로/-으로, -이다のうち、どれをとるかはかなり限定されているようである。例えば、26)の마찬가지は마찬가지로と마찬가지다の二つの形、27)의 동시は동시에の形でしかあらわれなかつた。また、aは後置詞的といえるが、これについては5. 1で述べる。

<名詞のリスト>

- aのみ 별도-로(別途), 합동-으로(合同), 반비례-로(反比例), 정반대-로(正反對), 동질-로(同質); 동시-에(同時)
- bのみ 동갑-이다(同い年)
- a, b의兩方 반대-로/-이다(反對に/反對だ), 마찬가지로-로/-이다(同様に/同じだ)

(2) 「名詞-를 動詞」¹⁷⁾

- 29) 무엇보다도 운영은 남편과 말을 하는 것을 즐겨하지 않는 듯한 눈치였다.(당신 99)

(何よりもユニオンは夫と話をすることをこのまないような様子だった。)

- 30) 새벽 일찍 워싱턴 광장에서 시민들과 조깅을 한다.(조 1.1, p7)

(朝早くワシントン広場で市民たちとジョギングをする。)

これにはまず「名詞-를 하다(名詞-을 하는)」という形式の分離用言の例がある。これらは-를の省略が可能であると思われる。

<分離用言のリスト>

*연애를 하다(恋愛をする), *경쟁을 하다(競争をする), 오찬을 하다(午餐をする), *무역을 하다(貿易をする), *화해를 하다(和解をする), 양보를 하다(讓歩をする), *얘기를 하다(話をする), 말을 하다(話をする), 점심을 하다(昼食を取る), 조깅을 하다(ジョギングをする)

その他には以下のような例がある。

- 31) 조선일보는 김영삼 대통령 당선자와 신년인터뷰를 갖고 그가 취임 후 펼쳐 나갈 국정운영의 구상 및 개혁의 내용 등을 알아보았다.(조 1.1, p2)

(朝鮮日報は金泳三大統領當選者と新年インタビューをもち, 彼が就任後展開していく国政運営の構想および改革の内容などを探った。)

- 32) 또 한번에 4천, 5천대의 TV를 실을 수 있는 베트남 무역선과 계약을 맺어 홍콩에서 물건을 빼낸 뒤 공해상에서 넘겨받고 있다고 한다.(조 1.7, p14)

(また一度に4千, 5千台のTVを積むことのできるベトナムの貿易船と契約を結び香港で品物を抜き取った後, 公海の上で引き継いでいるという。)

これらは-를をとる名詞や, 後に現れる動詞が特徴的である。

<名詞-를 動詞のリスト>

*시합을 갖다(試合を持つ), 신년인터뷰를 갖다(新年インタビューを持つ), 파이프를 갖다(パイプを持つ), *간담회를 가지다(懇談会を持つ), *회담을 갖다(会談をもつ), *협의를 갖다(協議を持つ), *관계를 갖다(関係を持つ), *공동기자회견을 가지다(共同記者会見を持つ), *협력관계를 맺다(協力関係を結ぶ), *계약을 맺다(契約を結ぶ), *관련을 맺다(関連をむすぶ), *재취업계약을 맺다(再就職契約を結ぶ), *수교를 맺다(修交を結ぶ), *연을 맺다(縁を結ぶ), *관계를 맺다(関係を結ぶ), *결연을 맺다(縁を結ぶ), *담소를 나누다(談笑を交わす), *신년인사를 나누다(新年挨拶を交わす), *이야기를 나누다(話を交わす), *협상을 벌이다(協商を始める), 작업을 벌이다(作業に着手する), *사투를 벌이다(死闘を繰り広げる), *경합을 벌이다(競合を繰り広げる), 관계를 설정하다(関係を設定する), *맥을 같이하다(脈を同じにする), *문화교류를 통하다(文化交流を通す), *비교를 통하다(比較を通す), *대조를 이루다(対照を成す), *충돌을 빚다(衝突を引き起こす), *세대차를 좁히다(世代差を縮める), *격을 달리하다(格を異にする), *운명을 닮다(運命が似る), *절교를 선언하다(絶交を宣言する), 화학반응을 일으키다(化学反応を起こす), *관계를 유지하다(関係を維持する), *안보협력체제를 구축하다(安保協力体制を構築する), *협력관계를 강화하다(協力関係を強化する), *협의를 거치다(協議を経る), *연립정부를 성립시키다(連立政府を成立させる), *협상을 시작하다(協商を始める), 문제를 논의하다(問題を論議する), *통일을 논의하다(統一を論議する), *결혼을 앞두다(結婚を控える), *힘을 합치다(力を合わせる), *자리를 같이하다(席をともにする), *관계를 희망하다(関係を希望する), *상담을 통하다(相談を通す), *협의체제를 유지하다(協議体制を維持する), *접촉을 늘려가다(接触を増やしていく), *합작관계를 청산하다(合作関係を清算する), *호흡을 맞추다(呼吸を合わせる), *거래를 트다(取引をする), *의견충돌을 일으키다(意見衝突を起こす),

(3) 「名詞-가/-이 用言」

33) 아이들도 그날만은 그런 나를 못 본 체해, 나는 별일 없이 그들과 하나가 될 수 있었고 석대의 싸움이 석대의 승리로 끝나고 도 한동안 그런 분위기는 이어졌다.(우리 44)

(子供たちもその日だけはそんな私を見なかったふりをして、私は普通に彼らとひとつになることができ、石大のけんかが石大の勝利で終わってもその雰囲気は続いた。)

34) 국민 총생산증 기제, 건물 등 생산성 향상을 위한 설비투자에 들어간 액수는 연간 11%에 멈춰 일본의 21%, 독일의 14%와는 경쟁이 안된다.(조 1.1, p4)

(国民総生産のなかで機械, 建物などの生産性向上のための設備投資にかかった金額は年間 11%にとどまり日本の 21%, ドイツの 14%とは競争にならない。)

上の例のような動詞以外にも形容詞や存在詞의 있다, 없다(ある, ない)がくるものもある。

35) 이들의 음악에 담긴 메시지는 물론 과거의 노래운동 가수들 같은 체제비판적인 것과는 거리가 멀다.(조 1.8, p9)

(これらの音楽に込められたメッセージはもちろん過去の歌運動歌手たちのような体制批判的なこととは隔たりがある。)

<名詞-가/-이 用言のリスト>

차이가 있다(差違がある), 관련이 있다(関連がある), 의견교환이 있다(意見交換がある), 견해차가 있다(見解の差がある), 연관이 있다(連関がある), 의논이 있다(議論がある), 거리가 있다(距離がある), 관계가 없다(関係がない), 연관이 없다(連関がない), 동류가 되다(同類になる), 하나가 되다(ひとつになる), 경쟁이 안 되다(競争にならない), 차원이 다르다(次元が違う), 제도가 다르다(制度が異なる), 뜻이 다르다(意味が異なる), 인연이 멀다(縁が薄い), 거리가 멀다(距離が遠い), 관련이 깊다(関連が深い), 관계가 깊다(関係が深い), 눈길이 마주치다(目線が合う), 눈이 마주치다(目が合う), 양립이 가능하다(兩立が可能だ), 무역이 허가되다(貿易が許可される)

3. 5 「体言+-와의(-との)」+名詞

36) 이같은 사실은 NAFTA의 무한한 발전 가능성을 보여주는 것이며 이는 장차 다른 경제블록들과의 관계에서 NAFTA의 경쟁력을 한층 증대시켜 줄 것으로 나는 생각한다.(조 1.7, p5)

(このような事実は NAFTAの限りない発展の可能性を見せてくれるものでありこれは今後ちがう経済ブロックとの関係において NAFTAの経済力をいっそう増大させてくれるものだと私は思う。)

37) 70년대 초만 해도 상대업체와의 경쟁에서 이겨야 살아남을 수 있었지만 이제는 달라졌습니다.(조 1.8, p6)

(70年代の初めまでは相手企業との競争において勝ってこそ生き残ることができたが今は変わりました。)

38) 이를 피하기 위해서는 자극적인데 비해 효과가 적은 구조조정 같은 협상방식보다는 사안별로 통산성이나 대장성같은 관련 부처들과의 개별회담을 통해 실질적인 진전을 이뤄나가는 방식이 바람직하다고 본다.(조 1.6, p4)

(これを避けるためには刺激的なのに比べて効果が少ない構造調停

のような協商方式よりは事案別に通産省や大蔵省のような関連部署との個別会談を通して実質的な進展を成し遂げる方式が望ましいと見る。)

<-와의の後に現れる名詞のリスト>

관계(關係), 거래(取引), 결별(決別), 협조(協調), 수교(修交), 합의(合意), 통합(統合), 경주(競走), 회담(會談), 인터뷰(인터뷰), 네트워크(네트워크), 경쟁(競争), 회동(會合), 교역(交易), 대화(對話), 직거래(直接取引), 협정(協定), 접촉(接觸), 연계(連係), 합병(合併), 협력(協力), 협의(協議), 교류(交流), 통상마찰(通商摩擦), 갈등(葛藤), 싸움(爭い), 차이점(違う点), 사이(あいだ), 전쟁(戰爭), 회견(會見), 불화(仲たがい), 신경전(神經戰), 유대(つながり), 약속(約束), 공동조사(共同調査), 첫 회의(初會議), 간담회(懇談會), 문제(問題), 만찬(晚餐), 국경(國境), 오찬(午餐), 마찰(摩擦)

4 等位的單語結合

ここまでに見てきたような從屬的單語結合には-와를從屬語として密接に結びつく主導語があった。等位的單語結合には主從關係はなく, 単に-와が二つの体言を対等に結びつける役割を果たす。また, 從位的單語結合において-와には, -와는(～とは), -와도(～とも)のようなとりたて助詞(副助詞)がついた形があるが, 等位的單語結合における-와にはない。

39) 인도령 카슈미르의 소포레시에서 6 일 분리주의자들과 인도보안군 사이의 충돌로 적어도 33 명이 사망하고 여러명이 부상했다고 관리들이 밝혔다.(조 1.7, p5)

(インド領カシミールのソポレ市で 6 日, 分離主義者とインド保安軍の間の衝突で少なくとも 33 人が死亡し, 何名かが負傷したと官吏が明らかにした。)

40) 뒤에 감추듯 들고 있는 비닐봉지에 소주와 쥐치포 따위 안주거리가 들어 있으리라는 것을 경옥은 모르지 않았다.(그림 10)

(後ろに隠すように持っているビニール袋に焼酎とカワハギか何かのつまみが入っているだろうということをキョンオクはわからなくはなかった。)

41) 전반적인 경제상황에 대한 부정적인 평가에도 불구하고 수출전망에 대해 희망적인 견해가 많은 것은 최근 몇해동안 수출이 부진을 면치못한데 따른 상대적인 요인과 함께 국제경기 활성화에 대한 기대 때문으로 풀이된다.(조 1.4, p6)

(全般的な經濟狀況に関する否定的な評価にも関わらず, 輸出の展望に関する希望的な見解が多いのは最近何年かのあいだ輸出が不振を

免れられないが、他の相対的要因とともに国際景気の活性化に対する期待のためだと解釈される)

上の例のように等位的に結合した体言のあとに사이(あいだ), 따위(たぐい), 등(など)のような名詞が続くことが多い。例 41)は 함께 と結合した例であるが、等位的単語結合のときの 함께 は省略可能である。また、以下のようない例がある。

42) 이 단체는 이와 함께 생산자와 소비자를 잇는 농산물 직거래 행사를 활발히 전개할 예정이다.(조 1.5, p19)

(この団体はこれと共に生産者と消費者を結ぶ農産物の直取引行使を活発に展開する予定だ。)

43) 이 금속활자의 우수성은 큰 글자와 작은 글자를 함께 갖추어, 큰 본문글자에 작은 글자 두 줄로 주석을 달 수 있는 인쇄체제를 보여준다는 점에서 잘 나타난다.(조 1.7, p21)

(この金属活字の優秀さは大きい文字と小さい文字をともに備え、大きい本文の文字に小さい文字の2行で注釈を付けることのできる印刷体制を見せているという点によく現れている。)

44) 우리는 마을 사람들에게 사과 뜻으로 수없이 머리를 숙이고 막 걸리나 받아마시라고 아저씨가 가지고 있던 돈과 저의 것을 합해서 오만 원을 그분들에게 드렸습니다.(겨울 40)

(私達は町の人々にお詫びの意味で数え切れないほど頭を下げて、濁り酒でも飲んでくれとおじさんが持っていたお金と私のを合わせて五万ウォンを彼らに差し上げました。)

これらの例は、-와 でつながれた二つの名詞が後に続く動詞の対象語となっている例である。

さらに等位的単語結合と従位的単語結合が複合されたものもありうる。

45) 북한과 대화와 교류를 증진함으로써 북한의 개혁, 개방을 유도하겠다는 것이다.(조 1.1, p10)

(北朝鮮と対話と交流を増進することによって北朝鮮の改革, 開放を誘導しようというのである。)

5 -와とともに用いられる後置詞的な副詞

5. 1 「体言+-와 함께」

上記の 3. 3 のうち「体言+-와 함께」という形が最も多くあらわれるが、これは 함께 が副詞というよりは後置詞的に用いられておりいろいろな機能を持っている。

46) 새해부터 미국은 전후세대이자 베트남전 반전세대인 클린턴의 대통령취임과 함께 세계를 진동시킬 전망이다.(조 1.1, p7)

(新年からアメリカは戦後世代でありベトナム戦争の反戦世代であ

るクリントンの大統領就任とともに世界を震動させる見通しだ。)

- 47) 아시아 소사이어티 한반도조사 연례보고서는 지난 수년간 한·미 양국간 마찰요인이 돼 온 한국의 통상 및 투자장벽은 과거 한국이 가난할 때는 정당화될 수 있는 것이지만, 경제성장과 함께 부적절한 보호장벽들이 됐다고 지적했다.(조 1.5, p2)

(アジアソサエティー朝鮮半島調査の例年の報告書は、この数年間韓米両国間の摩擦要因になってきた韓国の通商および投資障壁は、過去韓国が貧しい時には正当化されうる事だが、経済成長とともに不適切な保護障壁になったと指摘した。)

- 48) 대책본부는 사망자 1인당 4백만원씩의 위로금과 함께 유족의 생활상태에 따라 2백만, 3백만원씩의 생계보조금을 지급할 계획이며 부상자에 대해서는 의료비를 전액지원키로 했다.(조 1.8, p23)

(対策本部は死亡者一人当たり4百万ウォンづつの慰労金とともに遺族の生活状態によって2百万, 3百万ウォンの生計補助金を支給する計画であり負傷者については医療費を全額支援することにした。)

- 49) 과기처의 관계자는 최소한 사무실에서라도 불법복제를 추방하려는 의지를 반영한 것이라고 밝혔다. 이와 함께 컴퓨터바이러스 불법 제작 또는 배포하는 행위도 침해행위로 간주되게 되다.(조 1.6, p12)

(科学技術省の関係者は最小限事務室からでも不法複製を追放しようという意志を反映したものだと明らかにした。これとともにコンピュータウィルスを不法制作または配布する行為も侵害行為とみなされるようになる。)

-와 함께에는, 以下の4種類の機能があると思われる。

- (1), 3. 3의例22)のように, -와をとる体言が人物, 団体をあらわす名詞であり, その対象といっしょに後に現れる動詞のあらわす動作するという「同伴」の意味をあらわすもの。これらは, 함께の省略が可能である。
- (2), 46), 47)の例のように, -와をとる体言の出来事によって, 後に現れる出来事が引き起こされるような「契機」または「時間的」な意味をあらわすもの。これらは「-와 동시에 (〜と同時に)」と置き換えが可能である。また, 함께の省略は不可能である。
- (3), 48)の例のように, 意味的に「等位的単語結合」であり, また 함께の省略が可能であるもの。¹⁸⁾
- (4), 49)の例のように, 「이와 함께(これとともに)」がほぼ一語として扱われており¹⁹⁾, 文全体の接続という「状況語的」な機能をはたすもの。また, 함께の省略は不可能である。

3. 3 <副詞のリスト>中の副詞の多くは, 3. 4 (1) a の-와+名詞+-

에, -로/-으로とともに後置詞的なものである。また, 함께(ともに), 더불어(ともに), 같이(いっしょに)等の相互の置き換えが可能かどうかという問題が課題として残る。

5. 2 -와と-와 함께との置き換えの可能性

-와는-와 함께と置き換えが可能なものとは不可能なものがある。

(1) -와 함께と置き換えが可能なもの

50) 아버지가 눈 쌓인 육교 아래에서 얼어죽은 시체로 발견되었다는 연락을 받았을 때 윤영은 어머니와 함께 난생 처음으로 경찰서라는 곳을 가보았었다.(당신 112)

(父が雪の積もった歩道橋の下で凍え死んだ死体で発見されたという連絡を受けた時, ユニョンは母親とともに生まれて初めて警察署というところに行った。)

51) 김 당선자는 단배식에 앞서 정일권 김재순 최재구 김명윤당고문 및 핵심 당직자들과 함께 국립묘지를 찾아 충혼탑에 분향.(조 1.4, p2)

(キム当選者は参拝式に先立ちチョンイルグオン, キムジェスン, チェジェグ, キムيون윤ン党顧問および中心的な党識者とともに国立墓地を訪れ, 忠魂塔に焼香。)

52) 이번 시간에 여러분과 처리할 것은 엄석대 문제인데-----지난 시간에는 선생님의 묻는 방법에 잘못이 있었다.(우리 38)

(この時間に皆さんと処理すべきことは厳石大の問題ですが……前の時間には先生の聞き方に問題があった。)

以上の例の主導語はすべて動詞である。

(2) -와 함께と置き換えが不可能なもの

53) 우표한장 값이 몇년전의 호화주택 한채값과 맞먹었고,...(조 1.5, p28)

(切手一枚の値段が何年か前の豪華住宅一軒の値段と同じぐらいで, …。)

54) 그녀의 모든 것이 다 예전과 같아도 무언가가 달라져 있었다.(하나 32)

(彼女のすべてがみんな昔と同じでも何かが変わっていた。)

55) 설비투자도 6% 증가로 회복되는 등 총투자가 5.7% 늘어나고 민간 소비는 작년과 비슷한 7.4%를 기록할 것으로 전망했다.(조 1.7, p6)

(設備投資も6%増加で回復するなど総投資が5.7%増えて民間消費は昨年とほとんど同じの7.4%を記録する見通しだ。)

56) 클린턴은 여성도 남성과 동등한 파워를 행사할 수 있다는 가치관

의 소유자라고 선정이유의 하나로 들었다.(조 1.8, p4)

(クリントンは女性も男性と同等なパワーを行使することができるという価値観の持ち主であると選定理由の一つに挙げた。)

57) 이같은 현상은 그동안 격증한 자동차 및 공장의 신, 증설 등으로 인한 배기가스의 증가와 관련이 있다는 것이 대기 및 보건전문가들의 공통된 지적인 것이다.(조 1.6, p2)

(このような現象はその間激増した自動車および工場の新, 増設などによる排気ガスの増加と関連があるというのが大気および保健専門家たちの共通した指摘なのだ。)

58) 2 백 55 파운드의 체중을 고민하면서도 다이어트와 관계없는 정크 푸드를 사먹으면서 열심히 조깅은 한다.(조 1.1, p7)

(二百五五ポンドの体重を悩みながらもダイエットと関係ないジャンクフードを買い食いしながらも熱心にジョギングをする。)

以上の例のうち 53)의 主導語는 動詞であり, 54), 55), 56)의 主導語는 形容詞であり, 57), 58)의 主導語는 名詞を含む。

6 -와의 機能と意味について

ここまで「体言+-와」が現れる環境を, 従位的單語結合, 等位的單語結合の二つに分けてみてきた。また, -와と-와 함께との置き換え可能性についてみた。

まず-와는従位的單語結合と等位的單語結合の場合とで機能が大きく異なる。前者の場合「体言+-와」と主導語の間にはいわゆる主従の関係があると言えるが, 後者の場合「体言+-와」とその後ろの名詞との間には対等な関係があるだけである。従って-와는まず2つに大別される。

(1) 並立助詞 (等位的單語結合における-와)

(2) 格助詞 (従位的單語結合における-와)

5. 2 で見たように(2)はさらに次のように分類しえ, それに応じて-와의意味を次のように設定しうる。

(a) -와 함께と置き換え可能	動詞	……	同伴
(b) -와 함께と置き換え不可能	動詞	……	相互
	形容詞	……	比較
	名詞	……	關係

このように設定された-와의4つの意味は今までの研究者の立てた意味とほぼ一致する。

さらに「同伴」の場合は-와を含む従属語を省略しても文が成り立つが, 「相互」, 「比較」, 「關係」の場合は-와を含む従属語は文にとって必須の成分だという違いがある。

50') 윤영은 난생 처음으로 경찰서라는 곳엘 가보았었다。

(ユニョンは生まれて初めて警察署というところに行った。)

51') 김 당선자는 단배식에 앞서 국립묘지를 찾아 충혼탑에 분향.

(キム当選者は参拝式に先立ち国立墓地を訪れ, 忠魂塔に焼香。)

例 50') では 어머니와 (母親と), 例 51') では 당선자들과 (当選者と) という従属語が省略されているが文自体は成り立っている。したがって, どちらかという「同伴」の場合は-와を含む成分は状況語的であり, 他の場合是对象語的であるという違いにもなる。

なお, 5. 1 (3)のような場合の-와と-와 함께の置き換え可能な等位的単語結合については未調査である。

7 -와の観点からの述語成分の分類

7. 1 同伴動詞と相互動詞

上記6で見たように, -와の意味の観点からは(a)と(b)に二分される。動詞について言えばとりあえず(a)を同伴動詞, (b)を相互動詞と名づけることが可能である。3. 1および3. 4(2)に挙げたリストのうち*印をつけたものが相互動詞であり, 残りは同伴動詞である。なお-와を絶対的にとりえない非相互動詞, 非同伴動詞というべきものがあるかもしれないが, まだ調査はそこに及んでいない。

同様に-와の観点から比較形容詞(3. 2<形容詞のリスト>を参照), 関係名詞(3. 4(1)<名詞のリスト>のb, および3. 4(3)の<名詞-가/이 用言>のリストを参照)が取り出されうる。

7. 2 対称動詞と非対称動詞

ここまで見てきた文のすべての述語成分について「A-가(主語)+B-와(従属語)+C(主導語)(BとCは従位的単語結合, AとCは陳述的単語結合)」という構造の文を「A-와 B-가(主語)+C(述語)(AとBは等位的単語結合, A+BとCは陳述的単語結合)」に置き換えるという特徴がある。

例 50), 51), 53)は次のように置き換える。

50') 윤영과 어머니는 함께 난생 처음으로 경찰서라는 곳엘 가보았었다.

(ユニョンと母親はともに生まれて初めて警察署というところに行った。)

51') 김 당선자와 정일권 김재순 최재구 김명운당고문 및 핵심 당직자들은 함께 국립묘지를 찾아 충혼탑에 분향.

(キム当選者とチョンイルクオン, キムジェスン, チェチュグ, キムミョンギョン党顧問および党識者はともに国立墓地を訪れ, 忠魂塔に焼香。)

53') 우표한장 값과 몇년전의 호화주택 한채값이 맞먹었고...

(切手一枚の値段と何年か前の豪華住宅一軒の値段が同じくらいで、
…)

また、例 44)で挙げた等位的単語結合から成る「아저씨가 가지고 있던 돈과 저의 것을 합해서(おじさんが持っていたお金と私のを合わせて)」という文を、「아저씨가 가지고 있던 돈을 저의 것과 합해서(おじさんが持っていたお金を私のと合わせて)」という従属的単語結合から成る文に置き換えることができる。つまり、これら-와を含む従位的単語結合から成る文と-와を含む等属的単語結合から成る文は相互に置き換えうるという構造的な特徴を持つということである。このような特徴を対称とよぶことにする。朝鮮語の述語成分としての動詞、形容詞、名詞は上記のように対称の関係を成すものと成さないものがある。したがって、上記6)であげた述語成分のうち対称を成すものは、それぞれ対称同伴動詞、対称相互動詞、対称比較形容詞、対称関係名詞とよぶことができる。

次の例も同じように置き換えが可能であることがわかる。

59)제가 전문대학 학장을 한적이 있습니다만 전문대학의 교과서가
어떤 교과서이나 하면 서울대 교과서와 같은 것입니다。(조
1.1,p4)

(私が短期大学の学長をしたことがあります。短期大学の教科書が
どんな教科書かといえばソウル大学の教科書と同じものです。)

59')전문대학의 교과서와 서울대 교과서가 같은 것입니다。

(短期大学の教科書とソウル大の教科書が同じものです。)

しかし、この例では比較されるAとBが同種のもの(たとえば、人間どうし、物どうし、場所どうしなど)に限られる。したがって3. 2と3. 4(1)の場合でもAとBが同種のものでない場合にはこの置き換えは成立しない。例えば例 18)では、미국인들(アメリカ人達)と일본식(日本式)、例 28)では、그의 나이(彼の歳)と부통령(副大統領)はそれぞれこの置き換えは不可能である。

18)그러나 요즘 미국인들은 일본식과 다른 미국식 생산성 강화방식을
발전시키는 데도 엄청난 노력을 기울이고 있다。(조 1.5,p4)

(しかし最近のアメリカ人は日本式と違うアメリカ式の生産性強化方式を
発展させことにも途方も無い努力を傾けている。)

18')*미국인들과 일본식은 다르다。

(アメリカ人と日本式は違う。)

28)그의 나이는 올해 45 세로 클린턴 대통령 당선자보다는 한살 아래
고 고어 부통령 당선자와는 동갑이다。(조 1.7,p4)

(彼の歳は今年 45 歳でクリントン大統領当選者よりは一才年下で、ク
ア副大統領当選者とは同い年だ。)

28')*그의 나이와 고어 부통령은 동갑이다.

(彼の歳とゴア副大統領は同い年だ。)

上記の対称同伴動詞, 対称相互動詞は, 흥재성(1985a, 1986)의 대칭동사(対称動詞), 동반동사(同伴動詞), 상호동사(相互動詞)に対応するが, ここではこれらについて次のように説明している(以下, 訳は筆者のもの。なお筆者による要約的説明はかっこ内に示した)。

「 N^0 N^1 -와 ((서로) + *함께) Ω V \leftrightarrow N^0 -와 N^1 ((서로) + *함께) Ω V
($\Omega \neq N^1$ -를, $N^0 \equiv N^1$)

自動詞的対称構文は次のような属性の集合として定義される。

- (1), N^2 -를을許容しない。<自動詞構文の定義的属性>
- (2), N^0 と N^1 は意味上で等価性を持つ。
- (3), N^1 -와は必須的な動詞補語である。
- (4), 함께 と両立が不可能であり ; ²⁰⁾
- (5), 서로 を随意的に選択する短文である。
- (6), 同一の語彙/統辞的条件下で, N^1 が N^0 と等位接続され主語名詞句にあらわれる複数主語文と一定に対応する。すなわちこのような等位接続の複数主語文は, 単数主語の N^1 -와補語文と同義関係を成し, 함께 を拒否し 서로 を随意的に容認する。

以下はこのような定義に符合する自動詞的対称構文の例である。

- 例) a. 철수는 영희와 ((서로) + *함께) 결혼하였다.
(チョルスはヨンヒと((お互いに) + *ともに)結婚した。)
- \leftrightarrow b. 철수와 영희는 ((서로) + *함께) 결혼하였다.
(チョルスとヨンヒは((お互いに) + *ともに)結婚した。)

上の構造において V の位置に実現される動詞がまさに自動詞的対称動詞に分類される。(他動詞的対称動詞の場合は, 属性(1)は削除される)」

「以下は同伴構文の例である。

- 例) a. 철수는 영희와 (*서로 + (함께)) 광주에 갔다.
(チョルスはヨンヒと(*お互いに) + (ともに))光州に行った。)
- \leftrightarrow b. 철수와 영희는 (*서로 + (함께)) 광주에 갔다.
(チョルスとヨンヒは(*お互いに) + (ともに))光州に行った。)

N^1 -와は必須的動詞補語の特性を持っておらず, 서로 を拒否し 함께 を随意的に選択する点で決定的に対称構文と区別される。(その他の特性は

対称構文と同じ。』

「相互構文は次の文章が例示する。

- 例) a. 철수는 영희와 (서로+*함께) (믿었다, 의지했다)
(チョルスはヨンヒと(お互いに+*ともに) (信じた, 頼った)
- 例) b. 철수와 영희는 (서로+*함께) (믿었다, 의지했다)
(チョルスとヨンヒは(お互いに+*ともに) (信じた, 頼った)

相互構文の서로は対称構文とは違い, まず随意的要素ではない。(その他の特性は対称, 同伴構文と同じである。』

以上により対称構文, 同伴構文, 相互構文のVの位置に実現される動詞がそれぞれ, 対称動詞, 同伴動詞, 相互動詞と名づけられている。

まず, ここで用いられている対称, 相互という術語と本稿における術語が異なった概念であるということに注意されたい。対称について홍재성(1985a, 1986)では, 上記のいくつかの属性(特徴)の集合としているのに対し, 本稿では従位的単語結合の文と等位的単語結合の文が置き換え可能であるという特徴のみを指す。また, 相互についても同様に홍재성(1985a, 1986)では対称動詞と一部異なった属性(特徴)の集合であるのに対し, 本稿では相互動詞とは同伴以外の動詞, つまり-와と-와 함께の置き換え可能性という観点からの分類である。²¹⁾

さて, 홍재성(1985a, 1986)は, AとB(N⁰とN¹)の要素は等価性があれば, 「A-가+B-와 C」という構造の文を「A-와 B-가 C」という構造の文に置き換えるうるとしている。以下の例を参照されたい。

60) 두 할머니는 경옥할머니가 84년 남편과 사별한 뒤 줄곧 함께 생활해 왔으며 생활보조금과 이웃 주민 이씨 등 교회신도들의 도움을 받아 어렵게 살아왔다. (조 1.1, p30)

(二人のおばあさんはキョンオクおばあさんが84年, 夫と死別したあとずっとともに生活してきて, 生活補助金ととなりの住民の李さんなど教会の信徒の助けを受け貧しく暮らしてきた)

上の例60)はA, Bともに人物であり, 홍재성氏の定義によれば, 2つの要素は「等価性を持つ」といえよう。しかし, 「경옥할머니와 남편이 사별한 뒤…(キョンオクおばあさんと夫が死別した後…)」のように置き換えると, 二人のうちのどちらが死んだのかが不明瞭になったり, またはおばあさんと夫がその他の第三者と死別したと理解され, もとの文とは事実が異なってしまう。これは, 文の中でどちらの人物が中心的かということと関わるよ

うである。

したがって、同伴動詞、相互動詞、比較形容詞、関係名詞のそれぞれの多くは対称的であるが、一部に非対称的なものを含む。すなわち厳密には非対称同伴動詞、非対称相互動詞、非対称比較形容詞、非対称関係名詞などがあることになる。

これらをまとめると以下の図のようになる。

品 詞	分類 基準		A-가/이 B-와 C と A-와 B-가/-이 C と の 置き換え可能性による分類	
			対称	非対称
動 詞	-와と	可	同伴動詞	
	-와 함께 との 置き換え 可能性	不	相互動詞	
形 容 詞			比較形容詞	
名 詞		可	関係名詞	

8 対称動詞がとりうる2つの体言成分の性格

A-가/이 B-와 C (対称動詞) および A-와 B-가/-이 C (対称動詞) という構造に入りうるAとBの性格について調査した結果およそ次のようになる。

8. 1 Cが対称同伴動詞の場合

61) 저는 동생과 동치미를 먹으며 축수가 희미한 전등불 밑에서 방학 숙제 그림 일기 속에 눈이 내리고 있는 풍경을 그려 넣습니다.
(겨울 20)

(私は弟とトンチミを食べながら、光がかすかな電灯の下で休みの宿題の絵日記に雪が降っている風景を描き入れます。)

61') 저와 동생은 동치미를 먹으며 축수가 희미한 전등불 밑에서 방학 숙제 그림 일기 속에 눈이 내리고 있는 풍경을 그려 넣습니다.
(私と弟はトンチミを食べながら、光がかすかな電灯の下で休みの宿

題の絵日記に雪が降っている風景を描き入れます。)

62) 김 당선자는 4 일 오전 위원들에게 임명장을 준 뒤 낮에는 이들과 오찬을 함께 하면서 인수위 활동방향에 관한 자신의 의견을 밝힐 예정이다.(조 1.4, p2)

(キム当選者は4日午前委員達に任命状を渡した後、昼には彼らと午餐をともにしながら引受委員会の活動方向について自分の意見を明らかにする予定だ。)

62') 김 당선자와 이들은 오찬을 함께 하면서 인수위 활동방향에 관한 자신의 의견을 밝힐 예정이다.

(キム当選者と彼らは午餐をともにしながら引受委員会の活動方向について自分の意見を明らかにする予定だ。)

対称同伴動詞がとるAとBの体言は、以下の一例を除きすべて人物、団体名詞であった。

63) 밀려드는 나쁜 피곤감과 함께 또 한번의 만남을 치러냈다는 생각을 하며 저는 택시와 함께 당신을 뒤로 하고 미끄러져 갑니다.

(겨울 63)

(押し寄せてくるけだるい疲労感とともにまた一度の出会いをすましたという考えをし、私はタクシーとともにあなたを後にし、すべり落ちていきます。)

63') 저와 택시는 함께 당신을 뒤로 하고 미끄러져 갑니다.

(私とタクシーはともにあなたを後にし、滑り落ちていきます。)

<対称同伴動詞のリスト>

가다, 오다, 지내다, 살다, 나가다, 나서다, (함께) 있다, 살아오다, 둘러앉다, 들어가다, 미끄러져 가다, 처리하다, 우왕좌왕하다, 연출하다, 말을 하다, 조깅을 하다, 점심을 하다, 오찬을 하다, 시간을 보내다, 숨을 쉬다, 꿈을 꾸다, 동치미를 먹다, 나무를 줍다, 방을 쓰다, 일을 보다,

8. 2 C가対称相互動詞の場合

(1), A, Bともに人物, 団体名詞

A-가 B-와 V ↔ A-와 B-가 V

(A=人物, 団体名詞 B=人物, 団体名詞 V=対称相互動詞)

64) 그들이 하나코와 만나고 있을 즈음에 결혼했음에도 하나코에게 그 사실을 알리지 않은 게 분명했다.(하나 29)

(彼らが花子と会っているところに結婚したのにもかかわらず、花子にその事実を知らせなかったのは明らかだった。)

ここでの動詞만나다は、AとBはそれぞれ그들, 하나코であり、人物名詞である。ここに分類される動詞は、人物団体名詞以外の体言はとらない。

22)

<対称相互動詞(1)のリスト>

만나다, 마주앉다, 맞서다, 맞부딪치다, 떨어지다, 동떨어지다, 접촉하다, 합의하다, 협력하다, 결별하다, 경쟁하다, 연애하다, 결혼하다, 거래하다, 토론하다, 대립하다, 합류하다, 사별하다, 상대하다, 연락하다, 연립하다, 차별받다, 합의를 하다, 수교를 하다, 경쟁을 하다, 무역을 하다, 인적·물적교류를 하다, 화해를 하다, 얘기를 하다, 연애를 하다, 연을 맺다, 관계를 맺다, 협력관계를 맺다, 계약을 맺다, 재취업계약을 맺다, 결연을 맺다, 관련을 맺다, 호환성을 가지다, 시험을 가지다, 협의를 가지다, 신년인터뷰를 가지다, 공동기자회견을 가지다, 싸움을 벌이다, 협상을 벌이다, 조각작업을 벌이다, 자리를 바꾸다, 의견충돌을 일으키다, 세대차를 좁히다, 협력관계를 구축하다, 합작관계를 청산하다, 협의체제를 유지하다, 협력을 강화하다, 관계를 설정하다, 연립정부를 성립시키다, 협상을 시작하다, 손을 잡다, 거래를 트리다, 협의를 거치다, 이야기를 나누다, 눈을 마주치다, 힘을 합치다, 호흡을 맞추다, 격을 달리하다, 충돌을 빚다, 결혼을 앞두다, 국경선을 맞대다, 관계를 희망하다

(2), A, Bともに物質名詞, 抽象名詞など

A-가 B-와 V \leftrightarrow A-와 B-가 V

(A = 物質名詞, 抽象名詞など B = 物質名詞, 抽象名詞など V = 対称相互動詞)

65) 유럽지역에서 다발적으로 발생하고 있는 분쟁이 러시아의 안보와 직결되고 있으며 CSCE의 즉각적이고 광범위한 개편의 필요성을 보여주고 있다.(조 1.1, p6)

(ヨーロッパ地域で多発している紛争がロシアの安保と直結していて, CSCEの緊急かつ広範囲な改編の必要性を見せている。)

66) 자동차 등이 뿜어내는 질소산화물, 황산화물이 대기속의 수증기와 결합하면서 비나 눈에 섞여 내리는 것이 산성비.(조 1.9, p2)

(自動車などが吐き出す窒素酸化物, 硫酸化物が大気の水蒸気と結合しながら雨や雪に混ざり降ってくるのが酸性雨。)

ここでのAとBはそれぞれ65) 분쟁, 안보, 66) 황산화물, 수증기であり, どちらも物質名詞である。

<対称相互動詞(2)のリスト>

어우러지다, 엉키다, 섞다, 섞이다, 맞먹다, 맞닥뜨리다, 마주하다, 마주보다, 맞다, 맞물리다, 맞닿다, 뒤섞이다, 달라지다, 닿다, 대다, 견주다, 일맥상통하다, 물물교환하다, 결합하다, 충돌하다, 직결하다, 유리되다, 구분되다, 연결되다, 연계되다, 위배되다, 결합되다, 결부시키다, 맥을 같이하다, 화학반응을 일으키다, 대조를 이루다,

(3), AとBはそれぞれ人物, 団体名詞でも物質名詞, 抽象名詞でもありうる

와 CとA-와 B-가 Cという構造の置き換え可能性という観点からの動詞分類を行なった。今後次のような課題が残されている。

- 1) -와と-하고, -랑/-이랑との置き換え可能性。
- 2) -와 함께, -와 더불어, -와 같이等の置き換え可能性。
- 3) -와의観点からの3. 4(2)および3. 5の名詞分類(3. 4(2)の「名詞+動詞」において, 動詞は機能動詞的である)。
- 4) 対称形容詞, 対称関係名詞についての調査。
- 5) -와と-에の置き換え可能性とその観点からの動詞分類(例えば-와/-에 붙다)。
- 6) -와と-를の置き換え可能性とその観点からの動詞分類(例えば-와/-를 만나다)。

註

1) 本稿で用いる文法用語は基本的に菅野(1981), 菅野他(1988)に従う。-와/-과を体言助詞としたのは, 格助詞としての-와/-과に限らず並列助詞をも含めた全体的な考察を行うためである。また, -와/-과を語尾とするか助詞とするかは, 研究者によってさまざまであるが, 本稿では引用部分を除き助詞を用いることにする。本稿では-와/-과を便宜上-와と記すことにする。

2) 과학, 백과사전출판사(1979)では, “격토”を以下のように定義している。
“격이란 대상성을 가진 단어나 그밖의 단위가 문장속에서 다른 단어나 그밖의 단위와 맺는 결합관계를 나타내는 문법적범주이다.”(格とは対象性を持った単語やその他の単位が文の中で他の単語やその他の単位と結ぶ結合関係を表わす文法的範疇である。)

3) 以下, 引用した部分の下線および太字は筆者が付したものである。

4) ソ連科学アカデミー(1990-91)の単語結合論ではつぎのような術語を厳密に使い分けている。本稿もこれに従う。

結合(сочетание): 2単語以上からなる文法的統一体, すなわち単語結合それぞれ自体。

連結(соединение): 2つ以上の単語が単語結合を作るためにくっつくこと。

結びつき(связь): 結合を含めた, 広い意味での単語のつながりの一般。

また, ここでの“結合”とは連結にあたると思われる。

5) しかし, 菅野他(1988)では-하고 같이の形を文法的な形として載せている。また, 他の辞書においても, -와/-과と-하고의違いは後者がより話し言葉的であるとし, 置き換えは可能であるとしている。

6) これら“같이, 달리”や“더불어, 아울러”などをどのように扱うかは, 研究者により見解が異なる。菅野他(1988:1018)では, 「後置詞」または「後置詞的」なものとしている。また, 서영섭(1981)では, これらを「보조적으로 쓰이는 단어들의 련계(補助的に用いられる単語のつながり)」と説明している。

7) このような従う見解には他に김영희(1974), 이관규(1990)があり, また句接続のみによって説明しているものに임홍빈(1972)がある。

8) 김준희(1997)は, このような-와構文に現れる用言の下位範疇についての考察には他に김영희(1974: 대칭용언/무대칭용언/비대칭용언「対称用言/無対称用言/非対称用言」), 이필영(1989: 대칭동사/비대칭동사「対称動詞/非対称動詞」), 남기심(1990: 대칭용언/비

A-가 B-와 V \leftrightarrow A-와 B-가 V

- i A = 人物, 団体名詞 B = 人物, 団体名詞 V = 対称相互動詞
- ii A = 物質名詞, 抽象名詞など B = 物質名詞, 抽象名詞など V = 対称相互動詞
- iii A = 人物, 団体名詞 B = 物質名詞, 抽象名詞など V = 対称相互動詞
- (iv A = 物質名詞, 抽象名詞など B = 人物, 団体名詞 V = 対称相互動詞)

ここ分類されるものは、ひとつの動詞がうえの i, ii, iii の二つ以上の場合があります。iv は今回収集した用例のなかでは見つからない。

싸우다 を例にとって以下に示す。

- i A = 人物, 団体名詞 B = 人物, 団体名詞
- 67) 그는 벌써 4학년 때 중학생과 싸워 이긴 적이 있을 만큼 날래고 대답했다. (우리 28)
- (彼はすでに四年生の時中学生とけんかして勝ったことがあるくらいすばしくて大胆だった。)

- iii A = 人物, 団体名詞 B = 物質名詞, 抽象名詞など
- 68) 경옥은 거울을 보고, 벽을 보고, 열린 창을 향해, 설거지를 하며 쏟아지는 물소리와 맹렬히 싸우듯 말했다. (그림 335)
- (キョンオクは鏡を見て, 壁を見て, あいた窓に向かって, 皿洗いをしながら, 流れ出る水の音と激しく争うように言った。)

このように싸우다는 i と iii の 2 種類の組み合わせをとりうる。今回の調査では싸우다のように二種類の組み合わせをとる動詞はあったが, i, ii, iii の 3 種類をとる動詞はみつからなかった。しかし, たとえば비교하다(比較する), 동일시하다(同一視する)などの対象は人物, 物質名詞など何でもとりえるように思われ, このような動詞の場合は, 対象とする体言の制約はほかのものに比べて少ないと思われる。

< 対称相互動詞(3) のリスト >

- i と ii をとるもの
어울리다, 비교하다, 바꾸다, 닦다
- i と iii をとるもの
싸우다
- ii と iii をとるもの
동일시하다

9 今後の課題

今まで-와의機能, 意味を分析し, その観点からの述語成分(動詞, 形容詞, 名詞)の分類を行ない, さらに-와と-와 함께の置き換え可能性, A-가 B-

대칭용언「対称用言/非対称用言」などがあるとしている。また、欧米でも Levin(1993:36-37)は、これらと類似したものを“Reciprocal Verb”とし、英語におけるこのような動詞のリストを若干ではあるが挙げている。

9) 홍재성他(1997)にあげられている対称動詞, 相互動詞は以下の通りである。

<対称動詞>

自動詞: 간섭하다(干渉する), 결합하다(結合する), 결혼하다(結婚する), 겹치다(重なる), 경쟁하다(競争する), 닮다(似る), 닿다(接する), 되다(なる), 뒤섞이다(入り乱れる), 맞다(一致する), 맞먹다(五分五分だ), 묶이다(縛られる), 붙다(付く), 섞이다(混ざる), 싸우다(けんかする), 어긋나다(ずれる), 어울리다(釣り合う), 얽히다(絡み合う), 엉기다(絡み付く), 엉키다(もつれる), 엮이다(編む), 연애하다(恋愛をする), 이혼하다(離婚する), 인접하다(隣接する), 접촉하다(接触する), 통하다(通じる), 합의하다(合意する), 헤어지다(別れる), 합력하다(力を合わせる)

他動詞: 거래하다(取り引きする), 걸다(かける), 겨루다(競う), 견주다(比べる), 결합하다(結合する), 겹치다(重なる), 구분하다(区分する), 꼬다(よる), 나누다(交わす), 놓다(置く), 대다(触れる), 더하다(付け加える), 뒤섞다(混合する), 맞추다(あわせる), 먹다(食べる), 묵다(くくる), 바꾸다(替える), 분리하다(分離する), 붙이다(つける), 비교하다(比較する), 비기다(引き分ける), 비비다(混ぜる), 섞다(混ぜる), 엮다(編む), 이기다(こねる), 익히다(実らせる), 잇다(結ぶ), 잡다(つかむ), 짓다(作る), 통하다(通す), 드다(親しくする), 포개다(重ねる), 합하다(合わせる), 혼동하다(混同する)

自他動: 가까이하다(近づける), 꼬이다(もつれる), 다투다(争う), 대다(触れる), 대화하다(対話する), 따지다(明らかにする), 만나다(会う), 물리다(伸ばす), 뭉치다(一つになる), 부딪치다(ぶつかる), 부딪히다(ぶつかる), 사랑하다(愛する), 스치다(かすめる), 시키다(させる), 오가다(行き来する), 의논하다(議論する), 이야기하다(話をする), 좋아하다(好む)

<相互動詞>

自動詞: 닿다(つく), 닮다(似る), 모르다(知らない), 미워하다(憎む), 반하다(惚れる), 싫어하다(嫌う), 이해하다(理解する), 전화하다(電話する)

他動詞: 간섭하다(干渉する), 기대다(頼る), 미루다(負わす), 보다(見る), 비비다(混ぜる), 알리다(知らせる), 양보하다(讓歩する), 어기다(背く), 응시하다(凝視する), 잡다(つかむ), 좁히다(狭める)

自他動: 돕다(助ける), 속이다(だます), 의지하다(もたれる), 존중하다(尊重する)

10) 菅野他(1988:1022)に以下のような説明がある。「とりたて語尾は話し手の態度を示すもので、体言の各語尾(属格と呼格および数詞の連体形を除く)、用言の色々な形(連体形と終止形を除く)、副詞、後置詞(連体形を除く)に付き得る。」

11) 以上の要約は陳満理子(1996)による。単語結合論についてはそのほかに趙義成(1994, 1997)においても詳しく述べられている。

12) 菅野他(1988:69)では、「관련하다(関連する)」は“Ⅰ-고 있다の形は持つが, Ⅲ 있다は持たないもの”とし, 「관련되다(関連する)」は“いずれの形もあり得る”としている。

13) ここでの他動詞とは、単に-을格の目的語を取りうるものを言う。

14) 菅野他(1988:1033)では、これらを分離用言としている。以下、定義を引用する。「ある種の用言は2つの構成要素の間に格助詞やとりたて語尾が挿入されて、あたかも2単語のように見えるものがあり、これを分離用言(さらに分離動詞および分離形容詞)と呼ぶ事にする。」

15) “主導語の語彙=文法的な性格によって従属語が予定されるような結びつき”という単語結合の機能のことをさす。

16) 朝鮮語はいわゆる他動詞の受動形なのか、あるいは自動詞なのかを明確に規定することは難しい。

17) これらの「名詞-를/-을 動詞」や後述の「名詞-가/-이 用言」はそれぞれ動詞、形容詞のところで述べるべきものではあるが、ここでは形式的特徴により名詞のところで扱った。

18) これらも「-와 함께(～とともに)」を「-와 동시에(～と同時に)」に置き換えが可能ではあるが、置き換えた場合の意味は時間的意味が強くなり、意味が変わってしまう。

19) 一語として扱われているとは、分かち書きされた「이와 함께(これとともに)」の形がほとんど無かったこと、母語話者が意識的に一語と感じていることのみを根拠とするものであり、正確には一語か、二語かはいえない。

20) 홍재성(1985a)は、対称構文において-함께が挿入された時、次のような特徴があると述べている。

例) (철수는 영희와+철수와 영희는) (서로+함께) 만났다.

((チョルスはヨンヒと+ヨンヒはチョルスと) (お互いに+ともに)会った。)

上の例において서로が選択された場合は、対称構文を成すが、함께が選択された場合、N-를,またはN-와という形態の、他の補語が削除された省略文になり、つまり「チョルスとヨンヒはともに他の友達と会った」という意味に解釈され、同伴構文になると説明している。

しかし、今回の調査では次のような用例があった。

例) 동생이 간호원으로 서독에 파견되어 거기서 독일인과 결혼했다는 소식을 들던 날은 저는 터지는 웃음을 참을 길 없었지요.(겨울 28)

(妹が看護婦として西ドイツに派遣されそこでドイツ人と結婚したという知らせを聞いた日は、私はこみ上げる笑いを押さえるすべがなかった)

ここでは-와を-와 함께に置き換えても意味は変わらず、また補語が省略された文、つまり同伴の意味にもなりえない対称相互動詞の例である。

홍재성(1985a)での“대칭동사(対称動詞)”は、上のような特徴を必ず持っているとしているが、同じ動詞であっても複雑な文や文脈を考慮に入れると母語話者の中でも理解のされ方はさまざまであり、相互と同伴のどちらにも考えることのできる動詞があることがわかった。今回の調査で問題となった動詞を以下列挙する。

협의하다(協議する), 결혼하다(結婚する), 상의하다(相談する), 경쟁하다(競争する), 싸우다(けんかする), 어울리다(釣り合う), 만나다(会う), 어우러지다(一塊となる), 접촉하다(接触する), 대화하다(対話する)

21) 홍재성(1985ab, 1986)における“대칭동사(対称動詞)”と“상호동사(相互動詞)”はともに、本稿における対称相互動詞にあたる。今回の調査では、홍재성氏の設定する상호동사(相互動詞)のように、서로를必須の成分とする動詞がなかったため、本稿では設定する必要はないと判断した。-와の後に서로があらわれた用例は以下の形容詞の一例であった。

例) 미 모토롤라사의 대한투자회사, 모토롤라 코리아의 도날드 제롬 사장은 “투자 초기에는 한국근로자들의 사고방식이 서양인들과 서로 달라 애로를 겪었으나 지금은 많은 대화로 이를 극복하고 있다” 면서...(조 1.9, p6)

(米モトローラ社の対韓国投資会社, モトローラ코리아のドナルド, ジェロム社長は「投資の初期には韓国勤労者たちの考え方が西洋人とお互いに異なり, 難関を経たが今は多くの対話によってこれを克服している」といい...)

홍재성(1985ab, 1986)と本稿における術語の違いは以下のようにまとめることができる。

홍재성	本稿
대칭동사(対称動詞)	対称相互動詞
상호동사(相互動詞)	対称相互動詞
동반동사(同伴動詞)	対称同伴動詞

22) これらは、あくまでも今回の調査における結果であり、さらに多くの用例を収集

し, 再検討する必要があるとおもわれる。

参 考 文 献

- 강은국(1993), “조선어 문형연구”, 서광학술자료사, 서울.
과학, 백과사전출판사(1979), 《조선어문화문법》, 평양.
김영희(1974), ‘와’의 양성, 『국어국문학』 65.66 합, 국어국문학회.
김완진(1970), 文接續의 ‘와’와 句接續의 ‘와’, ‘語學研究’ VI-2, 서울대학교 어학연구소.
김준희(1997), ‘와’구문의 의미 해석, 『한말연구』 3, 한말연구학회.
김진수(1987), “국어 접속조사와 어미 연구”, 탑출판사, 서울.
남기심(1990), 토씨 ‘와/과’의 쓰임에 대하여, ‘동방학지’ 66, 연세대학교 국학연구원.
리근영(1985), 《조선어리론문법(형태론)》, 과학, 백과사전출판사, 평양.
서영섭(1981), 《조선어실용문법》, 료녕인민출판사, 심양.
성광수(1979), “국어 조사에 대한 연구”, 형설출판사, 대구.
송석중(1982), 조사 ‘과, 를, 에’의 의미 분석, ‘말’ 7, 연세대 한국어학당.
연세대학교(1998), “연세 한국어사전”, 연세대학교 언어정보개발연구원, 서울.
이관규(1990), ‘와’의 연결과 공동, “한국어학 신연구-우운 박병채 교수 정년퇴임 기념”, 한국어학연구회.
이필영(1989), ‘와’의 접속기능과 격표시기능에 관하여, ‘구려어문논집’ 16, 부산여자대학.
임홍빈(1972), NP-병렬의 {와/과}에 대하여, ‘논문집’, 인문사회과학편, IV, 서울대학교 교양과정부, 서울.
趙義成(1997), 현대 한국어의 단어결합에 대해서, 「朝鮮學報」163, 朝鮮學會.
차광일(1981), “조선어토대비문법”, 료녕인민출판사, 심양.
최현배(1937), “우리말본”, 정음사, 서울.
한글학회(1992), “우리말 큰 사전”, 어문각, 서울.
한글학회(1995), “국어학사전”, 한글학회, 서울.
홍재성(1985a), 한국어 경쟁구문에 대한 몇 가지 지적, ‘한글’ 187, 한글학회.
홍재성(1985b), 한국어 자동사적 대칭동사의 통사론적 정의, ‘인문과학’ 53, 연세대학교 인문과학연구소.
홍재성(1986), 현대 한국어 대칭구문의 한 국면, ‘동방학지’ 50, 연세대학교 국학연구원.
홍재성他(1997), “현대 한국어 동사 구문 사전(기초편)”, 두산동아, 서울.
石綿敏雄他(1983), 『文法と意味 I』 朝倉日本語新講座 3, 朝倉書店.
奥津敏一郎(1996), 『拾遺 日本語文法論』, ひつじ研究叢書(言語編) 8, ひつじ書房, 東京.
菅野裕臣(1981), 『朝鮮語の入門』 白水社, 東京.
菅野裕臣他(1988), 『コスモス朝和辞典』 白水社, 東京.
言語学研究会(1983), 『日本語文法』 (資料編)』 むぎ書房, 東京.
ソ連科学アカデミー(1990), ロシア語文法 2, 菅野裕臣訳, 神田外語大学講義資料(未刊行)
(Академия наук СССР.) “Грамматика русского языка”, Том II, Иститут языкознания, Москва, 1954 年の訳(部分).
ソ連科学アカデミー(1990-91), ロシア語文法 1, 2, 菅野裕臣訳, 神田外語大学講義資料(未刊行)
(Академия наук СССР.) “Русская

грамматика”, Том II, Институт русского языка, Москва, 1980 年の訳(部分).

陳満理子(1996), 現代朝鮮語の-로格について—単語結合論の観点から—, 「朝鮮学報」, 160, 朝鮮学会.

趙順文(1996), 『結合働文法論考』, 台湾立昌出版社, 台北.

趙義成(1994), 現代朝鮮語の-에서格について, 「朝鮮学報」150, 朝鮮学会.

Levin, B. (1993), *English Verb Classes and Alternations*. The University of Chicago Press, Chicago.

用例を収集した資料

略号	作品名	作者名	出版社名
겨울	겨울의 幻	김채원	李箱文學賞 수상작품집 13, 문학사상사, 서울.
그림	그림자 밝기	오정희	‘夜會’ 나남文學選 28, 나남출판, 서울.
당신	당신	김인숙	‘칼날과 사랑’ 김인숙 소설집, 창작과비평사, 서울.
배드	배드민턴 치는 女子	신경숙	‘풍금이 있던 자리’ 신경숙 소설집, 文學과知性社, 서울.
우리	우리들의 일그러진 英雄	이문열	李箱文學賞 수상작품집 11, 문학사상사, 서울.
조	조선일보(1993.1.1~1.8)		
하나	하나코는 없다	최윤	李箱文學賞 수상작품집 18, 문학사상사, 서울.

[付記] インフォーマントとして金昌男氏(千葉大学大学院), 関慶仁氏(千葉大学研究生), 李相浩氏(韓国外国語大学3年), 朴商姫氏(韓国外国語大学2年), 李昇妍氏(韓国外国語大学2年)にはたいへんお世話になりました。

현대한국어의 -와/-과에 대하여

치바대학교 연구생

에바토 후미야수

현대한국어의 ‘-와/-과’를 단어결합론의 관점에서 등위적 단어결합을 이루는 것(A-와 B)과 종위적 단어결합을 이루는 것(B-와 C, C는 동사, 형용사, 명사일 수 있음)으로 분류하고 ‘-와/-과’의 의미를 분석한 다음 C의 리스트를 제시했다. 그 다음 ‘-와/-과’와 ‘-와/-과 함께’와의 치환 가능성에 의해서 C를 동반동사, 상호동사, 비교형용사, 관계명사와 같이 분류했다. 또한 ‘A-가 B-와 C’와 ‘A-와 B-가 C’라는 구문에 들어갈 수 있는 C를 대칭동사, 대칭형용사, 대칭명사와 같이 부르고 이들 중 대칭동반동사, 대칭상호동사의 리스트와 그들이 성립하기 위한 A와 B의 조건을 고찰함으로써 지금까지 대칭동사라고 불리워져 왔던 개념을 재검토했다.